

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.137

2011/04/12

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 5月21・22日シンポジウムの舞台

11/04/05撮影

## 現地を見て・全国の取り組みから学ぼう



早朝の採餌をするシカの群れ

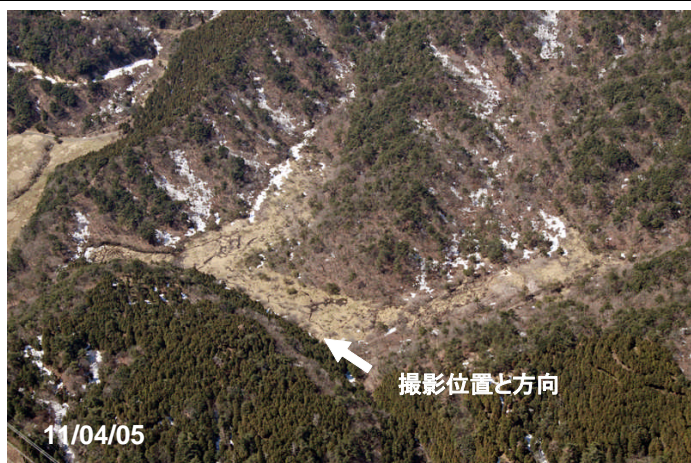
部湿原全体に設置を行っています。この部分は 1990 年代には、そば畑を思わせるほどミツガシワの花で被われていた場所ですが、2010 年はついに 1 株の開花も見られなくなりました。実生はまだ多く見られますので、何とか復元をと考えての処置です。このネットは、シカ用とイノシシ用を二重に張っています。多額の経費と人手をかけての作業ですが、はたして思い通りの効果があるかどうか経過を観察しなければなりません。動物の方も生きるためですから必死でしょうから・・・。

第 3 回山門水源の森生態系保全シンポジウムが既報の通り 5 月 21 日（土）現地観察会・22 日（日）基調講演・討論会を行います。「山門水源の森」の現況を観て、全国の現況を聞き、これからの「山門水源の森」の保全にどのように取り組んでいくかを参加者全員で討論しこれからの 10 年を考えるシンポにしたいと考えています。

左の写真は「若草山」ではありません。4 月 3 日午前 6 時 53 分の復元北部湿原で固定カメラがとらえたシーンです。この現況を踏まえて生物多様性を保全してゆくことは並大抵ではありません。これまでササユリやミヤコアザミ等の食害防止作業を行ってきましたが、今春は右の画像

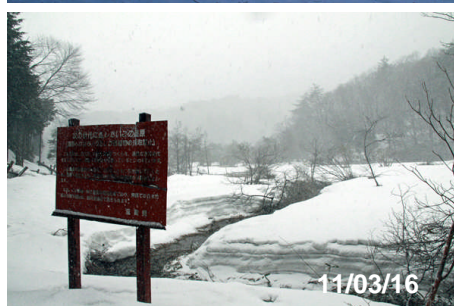


南部湿原を囲った食害防止ネット



久々の豪雪だった森も湿原全域の残雪は 4 月 10 日には完全に消えました。今冬の湿原の最高積雪深は、2 月 1 日の 216 cm でした。この日以降新雪も何回ありましたが、基本的には積雪量は漸減してゆきました。その経過を北部湿原で撮影したのが下の写真です。

融雪で地表が顔を出していち早く開花するのはバイカオウレンでこれに次いでアツミカンアオイ・ショウジョウバカマ・タチツボスミレ・トクワカソウ・トクワカソウ（これは樹木だが）と続きます。森の中での融雪には大きな時間差があるため、それぞれの開花期間は長いので 1 つの種の色々な段階を場所を変えて観察することができます。17 日からの週は、これらの植物に加えトキワイカリソウやシュンラン等の観察に最適です。



昨年度実施した北部湿原・中央湿原へ流入する沢で実施した砂防作業の効果は抜群です。その効果は湿原入り口（「炭窯跡」西側）の沢で確かめることができます。上流部からの土砂が砂防堤で堆積し河床面が上昇しています。その結果湿原面との比高差が減少し、湿原からの漏水が減少し湿原としての機能が高まったように思われます。勿論長期的には、昨年同様砂防作業を繰り返す必要があります。しかし湿原を保全するためにどのような作業が必要なのかの1つの答は得られたことになります。今年度も頑張りたいものです。